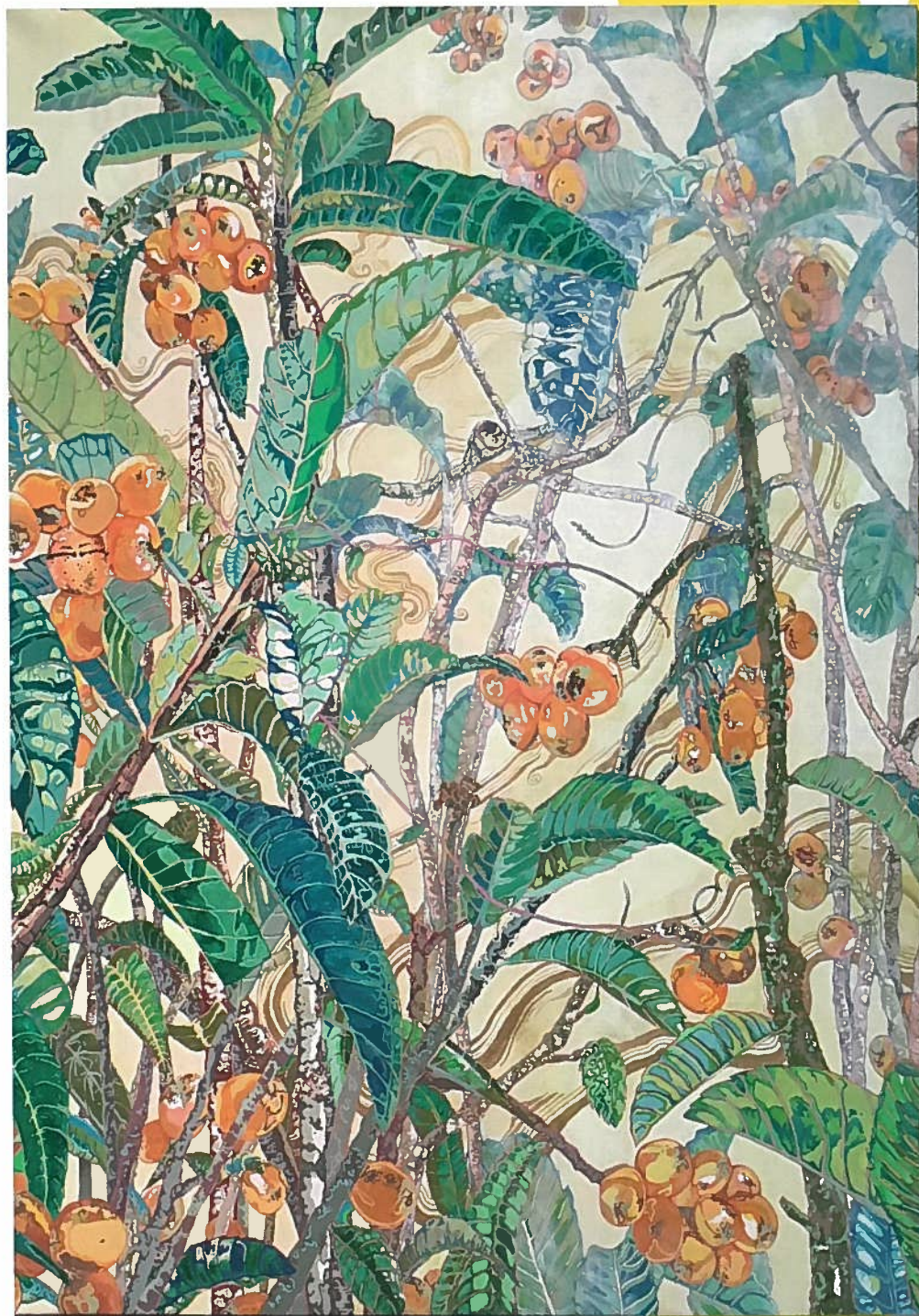


山口県教育

Education of the Yamaguchi prefecture

明日を拓く — 成果を検証する —

6



平成30年度 第71回山口県学校美術展 推奨作品

『びわ』

サビエル高等学校 3年生 (受賞時) 藤本 恭子

■提言〔子どもの成長に寄り添うみなさまへ〕
下関市教育委員会 教育長 児玉 典彦

■シリーズ「人・任・仁 ①」

■インタビュー・この人
地域子育て支援ネット「親鳩会」
代表 上野 敦子

■新たな職責を担う
光市立上島田小学校 校長 石丸 敬子
美祢市立秋芳桂花小学校 校長 佐々木真治
山口市立秋穂中学校 校長 吉富 郁子
岩国市立美和中学校 校長 山崎 隆英

■新たな職務に就いて
宇部市立見初小学校 教頭 長谷川敬子
阿武町立福賀小学校 教頭 和田 雅芳
岩国市立川下中学校 教頭 松山 巧
下関市立山の田中学校 教頭 磯崎 愛子

■作品募集
第11回「わたしの志」作文募集
第32回「金子みすゞ賞」童謡詩募集

一般財団法人 山口県教育会

〒753-0072 山口市大手町2-18 TEL 083-922-0383 FAX 083-922-5768

URL <http://www.ykyoikuk.or.jp> E-mail ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp

明治36年4月第1号 毎月1日発行 発行人 会長：倉増誠彦／編集長：山本晃久

あなたのアクションは…

山口県教育会がすすめる
「元氣やまぐち」三つのアクション

- ◎あいさつ 返事で 明るいやまぐち
- ◎笑顔でつなく 安心やまぐち
- ◎ゴミ 落書きのない 美しいやまぐち

学びに立ち向かう力を育成するための提言



下関市教育委員会

教育長 児 玉 典 彦

「教員の『子どもと向き合う時間』と『授業と向き合う時間』を確保する」

教育長となつて一年、私はこのことに力を尽くしてきました。他には何もしていません。指導主事も事務方も、私の無謀な要求に応えようと一生懸命取り組んでいます。それなのに、学校現場からその「時間」が生まれたという喜びの声は未だに届いてきません（私の力不足は承知です）。

新学習指導要領に示されるまでもなく、学校の使命は子どもたちの「学びに向かう力」を育成することです。そのために学校教育に関わる人々が何をすればよいのか。批判を覚悟の上で、少々過激な提言をさせていただきます。

一 教育行政に携わる皆さんへ

社会の変化とともに、学校への要請（〇〇教育）は増えるばかりです。それは仕方がないことかもしれません。しかし、学校現場のトラブルの大半は過重労働が原因で起きているのです。そして、そのトラブルが起きるたびに、それを

解消するための手立てが考案され、学校現場へ降りてきます。ところが、その手立てがさらなる過重労働となり、次のトラブルを誘発する。負のスパイラルは延々と続くことになります。この対症療法と、増え続ける〇〇教育を現場から引き上げることがぜひ考えてください。

二 学校現場の管理職の皆さんへ

ブラックな職場と言われながら、それでも働き続ける教師のエネルギーの源は使命感だけではありません。子どもや保護者、地域からの敬意と信頼がエネルギーとなっているのです。そのエネルギーを教員に充填するのが管理職の重要な仕事ではないでしょうか。学校便りは何のために出していますか。校長室通信を出すのは何のためですか。どんなコミュニケーションにも目的があります。それを意識して文章を書き、お話をしてください。学校は変わります。

三 教職員の皆さんへ

「子どものために」というマジックワードから

四 保護者の皆さんへ

子どもたちを機嫌の良い状態で学校へ行かせてください。大人だつて、寝不足やお腹の調子が悪いまま職場に行つても力を発揮できません。子どもたちが最も長い時間勉強するのは学校です。早寝・早起き・朝ご飯は、学びに向かう力をつけるための大前提です。子どもの笑顔ほど教師を元気にするものではありません。

五 地域の皆さんへ

学校へ来てください。お手伝いをしなくては考える必要はありません。先生ががんばっている姿を見るだけでいいのです。人は見られて美しくなります。教師も見られて成長します。学びに向かう教師のもとで子どもたちは学びに向かう力を身につけていくのです。学校に行かれたら、賞賛のまなざしと、ねぎらいの一言を残してくださいようお願いします。

気に障ることを多々書きましたが、ご容赦願います。学びに向かう力を育てるのは、学校の仕事です。でも、そのためには学校に元気な先生がいなくてはなりません。「子どものために」と同時に「先生のために」を考えてもらえませんか。

平成三十一年三月、山口市阿知須を拠点に活動を展開している地域子育て支援ネット「親鳩会」が、二〇一八年度優れた「早寝早起き朝ごはん」運動の推進で、文部科学大臣表彰を受賞されました。その代表を務める上野敦子さんに話をお聞きしました。



地域子育て支援ネット
「親鳩会」
代表 上野 敦子

Q…このたびは、文部科学大臣表彰受賞、おめでとうございます。率直な気持ちをお聞かせください。

山口市教育委員会から推薦の話をお聞きした際には、ただ「東京に行く」ということばに魅了され、期待感でいっぱいでした。受賞の知らせは本当に嬉しかったのですが、いざ決まると、たった一人で東京に行かなくてはならないことに加え、全国の受賞五十三団体を代表し、私が登壇し、表彰状を受け取らなければいけないという話を聞き、不安で夜もろくに眠れない緊張状態が続きました。

けれども、表彰式や関連行事を通して、震災復興中の石巻の校長先生や、ガールスカウトの代表、百マス計算の陰山英男先生など、様々な方々に勇気や励ましのことばをいただくことができ、出席できてよかったですと感じました。

基本的には、毎日やっている「おにぎりづくりの活動」と「遊びを通じた体力向上の取組」、そしてそのことによる「生活習慣の向上」が評価された受賞だと思っています。地域の方々、保護者の皆様、先生方、そして何よりも周囲の大人の期待に応えてくれている子どもたちのおかげだと、感謝の気持ちいっぱいです。

Q…「親鳩会」ってどのような団体ですか。

一口で言うなら、「学童保育の子どもたちの成長をいっそう豊かにするために、指導員、地域の大人や保護者で結成した支援団体」です。

私は、「子どもは、大人を知っているわりには、意外に本当の大人を知っていない」という印象をもつて

います。ふれあっている大人が、塾の先生やスポーツ少年団の指導者など、時間や場面で限定的なので、心や生活に深く入り込んだところでの本当の大人の温かさや豊かさ、厳しさを知らないのです。幸い、メンバーは様々な職種や団体に属しているため、多様な知恵や力をお借りできます。子どもたちが、その知恵や力に触れるからこそ、大人を知るといことだと思えますし、何より学童保育をたくさんの方でカバーできることがすばらしいことだと思っています。

Q…支援活動を始めたきっかけを教えてください。

広島から阿知須町に転居して五年後の平成十年、意を決して阿知須小学校学童保育の支援員の募集に名乗りをあげました。その後、山口市との合併を前に、井関小学校でも学童保育を立ち上げることに、周囲の勧めで平成十六年四月に、井関小学校の学童保育の支援員となりました。

児童十七名でのスタートでしたが、当時の子どもたちは元気がよすぎ、言葉遣い等に大きな課題がありました。この課題を何とかしなければと考え、様々な研修講座やセミナーに参加し、いろいろな話を聞き、仲間と話し合いました。

そこで、夏休みを利用して、できるだけたくさんの方々に来ていただいてふれあう機会を作りました。そこでは「あなたのお父さんのことをよく知っているよ」といった会話が生まれます。すると九月には、乱暴な言葉が減り、落ち着きのなかった子どもが机につき始めたのです。これが、さきほどお話しした、地域の大人を知ることです。

すると、こんどは保護者の方から、こういった活動を常時できるようにしたいとの声があがり、地域の方や更生保護女性会、保護者の方々とともに研修会を開き、平成二十年には指導プログラムができました。これをきっかけに「親鳩会」への組織固めを行い、活動を継続しながら今に至っています。

二期初めの九月には、子どもたちは学校に雑巾を持って行きます。その頃は学童も四十一名に増えていましたが、



子どもたちに自分で縫った雑巾を持って登校させようということになりました。地域の方に力をかしてもらえるか、不安でしたが、活動している仲間が精神的に動いてくれ、見事に地域の大人四十一名を連れがたです。このときには地域の力に頭が上がり、涙がでました。「みんなが元気になることだから、気にしないでよ」との地域みなさんの心優しく、打算のない人間関係に感動し、この思いをもつと子どもに伝えて幸せにしてやりたいと思いました。

Q…「おにぎりづくり」についてお聞かせください。

研修の仲間、大学の先生、大学の研究室と連携して活動を展開していく中で、鹿児島県のある保育園を視察に行った時に、子どもに向かかって闇雲に「ああしろ、こうしろ」と言うより、子どもに体力をつけてやることで、子どもが落ち着いて生活することができるようになるということ学びました。

子どもは、しっかりと食べればしつかり体を動かすことができ、そうするとよく眠むれ、朝もしつかり朝食を摂ることが出来ます。いわゆる望ましい生活習慣です。学童保育には、普通によい登壇したり、飛んだりねたりして遊ぶためにマットや跳び箱が広がってありますが、その遊びを充実させるためには、まずは腹ごしらえです。地域の方々を借りて米を準備し、子どもは毎日おにぎりを自分で作って食べています。余ったご飯をお母さんに持って帰っていただくと、お母さんの夕飯づくりまでの腹の足しになります。このおにぎりづくりと遊びを通じた体力向上で、生活習慣が整ってきました。

Q…今後の展望などをお聞かせください。

今子どもたちと論語に取り組んでいます。「己の欲せざる所は人に施すこと勿れ」「貧しくして怨むこと無きは難く、富みて驕ること無きは易し」が今の自分の心境です。子どもと一緒に学んでいます。

「親鳩会」のような、支援団体はたくさんあると思いますが、どの団体も、子どもを支えているように見えますが、実は子どもという宝に見守られているのではないのでしょうか。そのような団体がお互いに志でつながり、様々な支援で大きな輪ができれば素晴らしいことだと思っています。

(以上要約 インタビュー…山本 晃久)

多くの支えに感謝



光市立上島田小学校

校長 石丸 敬子

「子どもたちから『校長先生』と呼ばれると、この子どもたちを守らなくてはと、自覚と決意が新たにになります」。

これは、始業式前日に先輩の女性校長先生から、いただいた言葉だ。

新任校長としてのスタートの朝、高田川沿岸の見事な桜並木に、「頑張ります！」と宣言をして、新任地向かった。

緊張した気持ちで校長室に入ると、ガラガラと正門の開く音がした。慌てて外に出てみると、「校長先生、そんなに早う来んでもええよ、学校はわしらが、守っちゃるけん」。毎朝正門前で見守りをしてくださる地域の方の温かい声だった。

出勤する職員にも、「先生今日もがんばりいよ」と声を掛けてくださる。登校時には、子どもたちの列と一緒に見守り隊の方々の姿がたくさん。全校児童七十八人を校門まで送り届けてくださっている。そして、下校時にもまた、笑顔で子どもたちを迎えてくださる。

「この子は四人きょうだいの三番目。しつかりしちよるんよ」と、子どもたちに詳しく、成長を一緒に見守ってくださっていることが、見守り隊



学び舎と桜に迎えられ

の方との会話からも感じられた。新一年生をお迎えに来ていたお母さんも、地域の方に笑顔であいさつ。その光景を見て、「家庭・地域とともにある上島田小学校なのだ」と、つながりの強さと温かさを感じた。

着任式での児童の言葉の中に、「ぼくたちの自慢」ということで、学校独自の行事や、多様な学びの機会の紹介があった。それらはすべて、PTAの方や地域の方々の協力なくしては実現できないものばかりだった。今年度も、学校と家庭と地域がつながりあって、「ぼくたちの自慢」を増やしていきたい。

子どもや地域のよさを生かして



美祢市立秋芳桂花小学校

校長 佐々木 真治

秋芳桂花（しゅうほうけいか）小学校は前身となる嘉万小学校と別府小学校を統合して平成三十年度に開校した。それぞれの学校のシンボルである桂木山と花尾山から「桂（けい）」「花（か）」と名付けられた。

今年度は、児童数五十七名。「秋芳梨」の栽培が盛んに行われる地域であるため、子どもたちは「梨下村塾」として梨栽培の体験活動を継続している。また、嘉万小学校からマーチング活動を引き継ぎ、地域での演奏活動を通して地域貢献を果たしている。着任式の児童代表挨拶でも、これらの活動を代々継続してきたことが紹介され、心の柱になっていることがすぐにわかった。

このように、前身となる二つの小学校のそれぞれのよさを生かした取組が継承されている。これからさらに、秋芳桂花小学校としての新たな可能性を探っていかねばならない。着任してすぐに、保護者や多くの地域の方々との出会いもあり、有り難い提案をたくさんいただいた。実践と話し合いを重ねながら一歩ずつ前進していきたい。

一方で、年度始めの職員会議では、



梨の花粉付け

アレルギー疾患への対応の研修や、いじめ対策委員会の再検討などを通して、責任の重さを身にしみ感じた。あらためて身が引き締まる思いがした。教職員と保護者、地域が一丸となって子どもたちの安心・安全のための取組を進めていきたい。

全校の子どもたちと初めて対面した着任式の日、一日を終えて帰ろうとしたとき、はるか遠くのジャングルジムのてっぺんから「校長先生さようなら」と、子どもたちが大きな声であいさつしてくれた。明日もがんばろう、という心のエネルギーをもらい、不安よりも期待の方が大きくふくらんだ。

This is AIO!



山口市立秋穂中学校
校長 吉富 郁子

「春風や闘志抱きて丘に立つ」。好きな俳句だ。高浜虚子の作品である。情景が浮かぶ。「やるぞ!」との強い思い、「志」を胸に抱き未来に挑むように丘の上に立つ人物。その志の強さと共鳴するように吹く風、すがすがしい一コマだ。この作品の中の人物が百四十九人いる、それが秋穂中学校だ。そして、この百四十九人には、何人も応援団がいる。心強い。頼もしい。地域の応援があるから、安心して色々なことにチャレンジできる。

秋穂は、八十八ヶ所お大師参りの里であり、小林和作画伯やボストンマラソン優勝者浜村秀雄氏を輩出する文武両道の伝統と歴史をもつ。両氏の偉業を称える地域行事に市内外から多くの人が参加する。また、車エビの商業養殖発祥の地であり、えび狩り世界選手も毎年話題になる、熱い町だ。去る四月二十日(土)も地域の海水浴場や二つの小学校を拠点に児童生徒、教職員、地域住民、企業、一体となつてのクリーン作戦が実施された。「つながり・つながる」力を大切に、育てゆくエネルギーにあふれている。

私は、この秋穂地域の秋穂中学校での勤務、二年目となる。昨年度は教頭として、そして令和元年を迎える本年度からは校長として執務する。「自立・貢献」をキーワードに、子どもたちの表現(コミュニケーション)能力、つながり・つながる力の伸長を目標に日々真摯に学校経営に取り組む所存である。

「This is AIO!」(更なる前進)伸びゆく生徒の姿をもつて「これが秋穂中だ」と自信と誇りをもつていえる学校を保護者・地域の方々と共につくっていくたい。その中心に子どもたちの力を置いて!



四月八日 初心忘るべからず



岩国市立美和中学校
校長 山崎 隆英

辞令交付は「令和」の新元号報道発表日。

遠く瀬戸内海の向こうに由布岳を望む山口市立二島中学校から、青い山を分け入って岩国市立美和中学校へ新任校長として着任。

早速、明日の企画委員会の打ち合わせ。教職員スタッフの五名が留任、新たな着任が九名の新組織が固まったのは四日の夕であった。教職員に「生徒の将来の自立に向けて、六十六名の全校生徒を全教職員で育てましょう」と伝えた。

五日、心遣いの見える歓迎会。翌六日土曜日は美和の桜祭りに、同じく新着任の美和西小教頭先生と参加。地域の方々に挨拶した。三百六十度桜並木に囲まれた会場で、人からも空からも暖かく迎え入れていただいた。

八日、始業式。「風揚げの風は、風に流されているときではなく、風に向かって流れるときに最も高く舞い上がる(チャーチル)。新しい自分で挑戦を」と、在校生と教職員と自分自身へのエールの式辞。

校長としての願いを込めた入学式式辞。壇上で熱い思いがこみ上げてきた。新入生代表の誓いの言葉に「夢と希望を胸に一緒に頑張りましょう」と声をかけた。

式後校長室で学校運営協議会理事の方と懇談した。県内の先駆けとなつて平成十九年度にスタートした伝統ある学校運営協議会の説明を受け、様々な地域連携(地域の方々に講師に招いてのふるさと交流会、地域行事参加、伝統芸能や三桧からの卒業証書づくりなど)の話に学校を応援していただいていると感謝し大変心強く感じた。

地域の宝である子どもたちの将来の自立に地域、保護者、全教職員とともに全身全霊で取り組もうとの思いを強くした。「初心忘るべからず」である。

三桧植樹記念

2017年3月15日

校の会
学づくり協議会
中みまづくり財団
和谷まちづくり財団
校長 岩国往來まちづくり財団
美和 山口県ひとづくり財団



三桧 (みつまた)

地域と学校の架け橋として



宇部市立見初小学校
教頭 長谷川 敬子

今春はやや肌寒く例年より桜を愛でる時も長かったように思う。その美しさを感じる余裕もなく着任を迎えた。始業式までの一週間、自分の業務は手探りで様々な方にお聞きしながら何とか日々を過ごす。先の見えない仕事に自分自身、情けなささえ感じる日々であった。そんな私にそつと声をかけてくださる教職員や地域の方々。ここで人との繋がりを大切にしたいと改めて痛感した。

本校は街の中にある全校児童九十六名の小規模校である。朝どこからともなく「おはようございます」の声が聞こえる。子どもたちのさわやかな挨拶は、本校のチャレンジ目標ともなっている。朝から思わず笑顔になれる瞬間である。また、それを支える地域の方々。本校は多くの地域の方々に支えられて子どもたちが伸び伸びと育っている。子どもたちのために何かしたいという思いは、教職員同様大変強く感じられる。心強いバックアップ体制が充実している。地域ボランティアとして「読み聞かせ」「囲碁将棋」「授業支援」「放課後教室」「子ども委員会」等の他、子どもたちの安全のため見守り隊の

皆様も毎週下校時に学校周辺に立ってくださる。ご挨拶に行くこと笑顔で返してくださる。私もほんの少し本校の一員になれてきているのかなと思う。また育友会執行部、部長を中心とした活動も積極的で、協力体制がしっかりと整っている。

教頭として一番に人を大切にできる初心は常に心に刻んでおく。そのうえで、子どもたちや教職員・保護者・地域の方々との架け橋となつて動いていく。「みんなで思い合いめざせ笑顔100%、いじめ0%」の見初の子宣言にあるように、みんなが通いたい、来たい学校目指して今できることから始めていきたい。笑顔いっぱい教頭として。



校舎に初心を誓う

誠意と笑顔で自分らしく



阿武町立福賀小学校
教頭 和田 雅芳

新任地は、二十年前にも勤務した懐かしき学校だった。驚くべきは、地域を挙げての歓迎会。保護者や地域の方々が一同に会して教職員を歓迎してくれるのだ。おそらく県内でこれほど教職員を大切に迎えてくれる所はないのではと思う。教頭として責任の重さを感じ、身の引き締まる思いがした。

本校は、教育課程に田植え、稲刈り、自転車競技大会、森林教室などの特色ある教育活動が位置づけられ、ふるさとを愛し、誇りに思う子どもたちの育成を目指している。現在、全校児童十二人。だが、みんなとても仲がいい。何よりこの地域が大好きである。上級生が下級生に寄り添い、思いやり、関わり合う姿は微笑ましい。一番の自慢は、「ふるさと夢太鼓」である。地域の方を指導者に迎えて始まったこの活動は、もう十年以上になる。今年も十二人全員で取り組む。地域の行事や小学校の音楽会、色々なところで演じている。ひとたび演奏が始まると、聴く者をくぎ付けにする太鼓の響き。舞うようにたたくその姿に、固唾をのんで見入ってしまう。地域の方もみんな笑顔で聴き入っている。地域を愛し、地域に愛される子どもたち。

将来、全ての子どもが何らかの形で地域の担い手になるであろうことを願う。みんなの笑顔がこれからもずっと続くように、教頭として何ができるか今はまだよく分からないが、地域と保護者と学校を結ぶパイプ役として、まずは、児童、教職員、保護者、地域の方々の想いを受け止めることから始めようと思う。将来、この地域の担い手として活躍する人材を育てるために。何事にも誠意と笑顔で、自分らしく。



「ふるさと夢太鼓」の演奏風景

三月末、業務の引き継ぎのため、初めて学校を訪れた。校門を通ると目の前にはグラウンドが広がり、熱心に部活動に取り組んでいる生徒たちの姿が目に見えび込んできた。すれ違う生徒たちが元気に明るいあいさつをしてくれる。その顔を見ると「教頭としてここで働くのだ」という実感が湧き、気持ちが一層引き締まった。

本校は、校歌にも「すがすがしいこの三角州（デルタ）」とあるように、門前川と今津川に囲まれた三角州にあり、近くには米軍岩国基地がある。町の雰囲気も国際色豊かな特色が感じられる。

地域がこの特色を生かし、学校と一体となつて子どもを育てるため、地域協育ネット「あつたかネット」が十分に機能し、活動が充実している。マスコットキャラクターの「ほつとちゃん」はいたるところに登場して人と人をつなぎ、大活躍である。

職員室では、豊かな経験を有するベテラン教師と何事にも積極的で勢いのある若手教師が各主任のリーダーシップの下、一致団結する雰囲気がある。学校教育目標「校訓・校歌を大切に、夢や志を抱く生徒の育成」の具現化



チーム川下の一員として

岩国市立川下中学校
教頭 松山 巧

「おはようございます」爽やかな挨拶で山の田中学校の生徒は、新天地に初めて訪れた私を迎えてくれた。この挨拶で緊張していた私の気持ちがすつとほぐれたことを、感謝の気持ちと共に私は心に刻んでいる。

校舎に入るとすぐに、「生徒会スローガンPEACE」の大きな旗が掲げられている。生徒たちの手により造成された校舎の中庭では、昼休みに「中庭コンサート」が開催される。吹奏楽部の演奏や歌声が響き、多くの生徒が集う素敵な輪ができています。

下関市の中心部に位置し、生徒数四三四名の本校は、明るさと礼節をわきまえた生徒と、「チーム山の田」を合言葉に、生徒のために一生懸命に取り組む活気に満ちた教職員とで、生徒主体の教育活動を展開している。学校の周りには地域の方の手により、紫陽花や芝桜が丁寧に植えられ、学校に対する地域の深い思いを感じる。

この山の田中学校を配置校として、三校の兼務校に学力向上推進リーダーとして勤務する機会をいただいた。新たな職務に臨む、その責任と不安でいっぱいになるとき、これまで出会った多くの先生方と子どもたちとの思い出



校訓「純真・親和・努力」

出会いを大切に



下関市立山の田中学校
教頭 磯崎 愛子

「率先垂範」「師弟同行」を掲げた初任のころから、たくさんの方の繋がりに助けられてきた。初心を忘れず、これまでの繋がりの中で得たものを糧にして、新しい環境で誠実に務めていきたいと思う。

「素心に初心を思い出す」――恩師から教えていただいた言葉だ。多くの学校に赴く機会があることは、多くの出会いがあるということ。目の前の人ひとりの子どもたちのために、私は力を尽くしたい。



たくさんの出会いを期待ふくらむ学び舎

第32回「金子みすゞ賞」童謡詩募集

1 趣 旨

人や自然、文化とのかかわりを独自の心象でとらえた金子みすゞの心が蘇るような感性豊かな童謡詩・自由詩を募集します。

- 2 募集部門 (1) 小学生の部
(2) 中学生の部
(3) 高校生・一般の部

3 募集要領

- (1) 作品は、未発表のもので一人2編までとします。
(2) 応募作品は、A4判の所定の用紙に縦書きとし、1編あたり2部コピーして提出してください。
(3) ①募集部門 ②住所 ③電話番号 ④氏名 ⑤題名 を明記してください。

児童生徒は、学校名・学年、氏名、題名のみ記入してください。

* 応募用紙の様式は、冊子「山口県教育会の学校等連携について」と山口県教育会ホームページに掲載しています。

* 応募作品の著作権は主催者に帰属するものとし、原稿は返却しません。

- 4 送付先 一般財団法人山口県教育会
〒753-0072 山口市大手町2-18

5 応募締切 令和元年9月10日(火)

6 表 彰

最優秀(山口県教育委員会教育長賞): 全部門から1編
優 秀(山口県教育会長賞): 各部門ごと1編
佳 作: 各部門ごと数編
学校賞: 全応募校から1校

7 審査結果

- (1) 令和元年10月中旬に受賞者へ通知します。併せて山口県教育会の情報紙「山口県教育」とホームページ等に掲載します。
(2) 最優秀・優秀受賞者は、令和元年年11月16日(土)に柳井市で開催される「第18回やまぐち教育の日・第47回教育県民大会柳井大会」で表彰し、最優秀受賞者は作品の朗読をします。

第11回「わたしの志」作文募集

1 趣 旨

将来を担う児童生徒が「わたしの志」をもって明日を拓く力を身につけ、たくましく生き抜いていこうとする作文を募集します。

2 募集部門

- (1) 小学生の部(4年生以上) 1,200字以内
(2) 中学生の部 2,000字以内
(3) 高校生の部 2,000字以内

3 募集要領

- (1) 作品は、未発表のものに限ります。
(2) 作文用紙の1行目に題名(内容に合ったもの)、2行目に学校名・学年、3行目に氏名を明記し、4行目から本文を書いてください。
* 内容に添った題名を付けてください。
* 応募作品の著作権は主催者に帰属するものとし、原稿は返却しません。
* 100作品以上応募される場合は、事前に山口県教育会の担当にご相談ください。

- 4 送付先 一般財団法人山口県教育会
〒753-0072 山口市大手町2-18

5 応募締切 令和元年9月10日(火)

6 表 彰

最優秀(山口県教育委員会教育長賞): 全部門から1編
優 秀(山口県教育会長賞): 各部門ごと1編
優 秀(松風会理事長賞): 全部門から1編
佳 作: 各部門ごと数編

7 審査結果

- (1) 令和元年10月中旬に受賞者へ通知します。併せて山口県教育会の情報紙「山口県教育」とホームページ等に掲載します。
(2) 最優秀・優秀受賞者は、令和元年11月16日(土)に柳井市で開催される「第18回やまぐち教育の日・第47回教育県民大会柳井大会」で表彰し、最優秀受賞者は作品の朗読をします。

終身会員の紹介

松村 仲夫	様(下松)	三浦 龍夫	様(下松)
阿部正二郎	様(山口)	山崎 伸介	様(山口)
吉鶴 修	様(山口)	谷岡 康幸	様(山口)
三賀森敏幸	様(阿西)	宮本 剛	様(萩)
伊藤 正統	様(広島)		

お詫びと訂正

四月号で紹介した終身会員の所属支部に誤りがありました。謹んでお詫び申し上げます。訂正いたします。

隅野 努 様 (誤) (萩) ↓ (正) (宇部)

第二回支部長・事務局長会

報告

- 平成30年度事業報告(中間報告)について
- 二〇一九年度活動方針・事業計画・収支予算について
- 支部活動の状況について
- 平成30年度教育研究・地域活動等助成事業について
- 平成30年度年度会員状況について
- 二〇一九年度山口県教育会の学校等連携について
- 二〇一九年度会員組織について

協議・連絡

「支部活動の状況」については、和木、豊浦、長門の各支部から、小中学校での森林体験学習や権芽栽培、中学校の開放講座とのタイアップ、ドローン研修の小学校への提供など、支部の地域性や自然環境等の特色を生かし、支部としての工夫を盛り込んだ取組を紹介していただきました。

「会員状況」については、光、周南徳山、美祿、大津、萩の各支部から、会員の減少という共通の課題のもと、小中学校だけでなく幼稚園や高等学校への働きかけ、退職教諭への入会案内や現会員への継続依頼等の働きかけの拡大と強化、そのための学校の窓口としての教頭先生への依頼に関して、その事例と工夫を紹介していただきました。



三月五日(火) 山口県教育会館